



ガラス工芸は土地を選ばない。でも北陸を選ぶ理由があったんです。

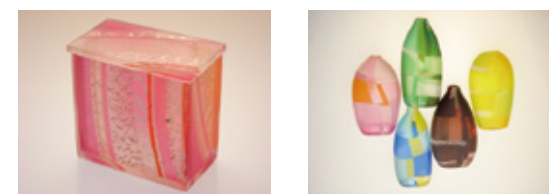
佐野 猛 さん・曜子 さん × ガラス工芸

富 山市古沢に工房「Glass Studio SANOSANO」を構え、夫婦でガラス工芸作家として活動する佐野猛さんと曜子さん。夫婦二人が同じ工房で創作に取り組んでいるものの、それぞれが一人の作家として作品を生み出している。二人に共通しているのは、吹きガラスでまず素材を作り、色の異なる素材を組み合わせてもう一度吹いて仕上げる独自の技法。「ガラスが他の工芸と異なる点のひとつは、成形を何度でも繰り返せることなんです。できたものに熱を加えれば溶け、冷えれば固まるガラスだからこそできることですね。」

その技法をベースに、猛さんは素材の組み合わせによって複雑な色と模様を作り出し、曜子さんは表面の色ガラスに細かい筋を刻む手法で、それぞれに趣の異なる作風を確立している。

「ガラスのもうひとつの特徴は、陶芸や漆芸と違って産地がないこと。どこの土地でも作るができます。」

そう話す猛さんと曜子さんが北陸で創作活動を始めたのは25年前。結婚翌年の1991年から石川県の能登島ガラス工房に務め、98年には独立して富山に移住、2011年からは現在の工房で活動を開始した。千葉県出身の猛さんと東京都出身の曜子さんが「どこでも作れる」はずのガラス工芸の創作の場に北陸を選んだ理由は、「ガラス作家がこんな集まっているエリアは珍しい」からだと言う。「富山ならここ古沢地区、金沢では卯辰山や牧山、福井は金津と、北陸にはガラス工房が多く、北陸を創作拠点とする作家もたくさんいます。また共同で使える設備が整っていることで、若い人もどんどん集まってくる。我々にとって、とても刺激にあふれた環境なんです。また地域の皆さんにガラス工芸が親しまれているのもすばらしい点ですね。これからもこの環境で、人の暮らしを豊かにする作品を生み出していけたらと思っています。」



他の伝統工芸に比べ、日本ではまだ歴史の浅いガラス工芸。北陸に生まれたこの新しい文化を、佐野さんご夫婦をはじめとする多くの作家たちが牽引している。



Glass Studio SANOSANO
佐野 猛 さん・曜子 さん
富山県富山市古沢157-2 TEL.076-436-3930

富山市古沢を拠点に夫婦でガラス作家として活動。東京ガラス工芸研究所で知り合い結婚、能登島ガラス工房制作スタッフを経て、1998年に富山にて「Glass Studio SANOSANO」を設立。今年2月には東京・伊勢丹新宿店で「佐野猛・佐野曜子ガラス展」が開催された。



北陸の街が持つ雰囲気とそれを大切にする文化がとても好きなんです。

たくさんの観光客が訪れる今の北陸だからこそ、これまで守り続けたものを大切にしてほしい。

4 月1日から公開された映画「蜜のあわれ」の原作は、金沢市生まれの作家・室生犀星の晩年の作品です。犀星自身を投影したとされる老作家と少女の姿を持つ金魚「赤子」との関わりを描く幻想文学で、私が初めて読んだのは高校生の時。ふたりが交わす言葉の美しさや小気味よいテンポ、全編から醸し出される時代の雰囲気や強く惹かれて、「この小説を映画にしたらどんな映像作品になるのだろう」と感じました。それ以来ずっと「いつか映画にしたい」と願いつけてきた、私にとって特別な作品なんです。

私の演じた赤井赤子は人の姿で描かれる金魚で、また犀星が抱く女性像を象徴する存在です。人間の役ではないからこそ、頭で考える「人間らしさ」ではなく、身体が先に動くような「生き物らしさ」を感じさせるキャラクターにしたいと考えていました。金魚や子供の動きを取り入れるなど撮影現場でいろいろと試しながら私

りの赤子を演じることができたと思っています。老いゆく作家と生命を燃やす赤子の物語を、ぜひ楽しんでいただきたいですね。

この映画の撮影は、富山市のシネマ食堂街や金沢市のひがし茶屋街をはじめ、高岡市や加賀市など北陸の各地で行われました。時代を感じさせる古い街並みが残る北陸のロケーションがなければ、この映画はまったく違うものになっていたかもしれません。北陸は、街ごとの歴史や文化をととても大切にしているという印象があって、以前から大好きな地域です。北陸新幹線が開通して来やすくなったことも嬉しい出来事でしたね。多くの人が北陸のさまざまな魅力に触れやすくなったのは、とてもすばらしいことだと思います。

一方で、独自の文化を持つ街が観光用の街になってしまうのは残念なことだと思います。私自身が沖縄に生まれ育ったから余計にそう感じるのかもしれませんが。



観光で訪れる方が増えても、北陸の街の雰囲気やそれを大切にする文化は、ずっと変わらずに守り続けてほしいと思います。

撮影で訪れた富山のシネマ食堂街は、再開発のために取り壊されてしまったと聞きました。仕方がないことなのかもしれませんが、やはり寂しさも感じます。せめて映画フィルムの中に、あの風景を残せてよかったとも思いました。現代の生活と歴史あるものが、また街と自然がバランスよく共存しているところが北陸の魅力ではないでしょうか。ぜひまたゆっくりと訪れたいですね。

Web限定トーク公開中！
二階堂さんのさらなる魅力は **えるふぷらざNet**
www.elfplaza.jp



女優
二階堂 ふみ さん

1994年沖縄県生まれ。2009年「ガマの油」で映画デビュー。'11年には「ヒミズ」でヴェネチア国際映画祭マルチェロ・マストロヤニ賞（最優秀新人賞）を受賞した。今後の公開待機作は「オオカミ少女と黒王子」「ふきげんな過去」「SCOOP!」「何者」など。最近では文筆の仕事にも積極的に取り組んでいる。